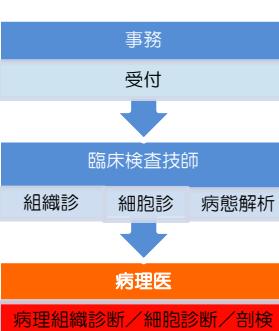


病理診断部の仕事の流れ⑩

< 病理組織診断・細胞診断・剖検診断 病理医編 その2 >

前回に引き続き「病理組織診断」業務についてですが、今回は病理組織診断の守備範囲について、その項目だけを紹介し、詳細は次回以降に説明します。

また、自治医科大学附属病院の診療にも次第に影響を及ぼしてくるであろう、病理医不足に関連して「認定病理専門医数」の都道府県別グラフ（一部省略）を示します。

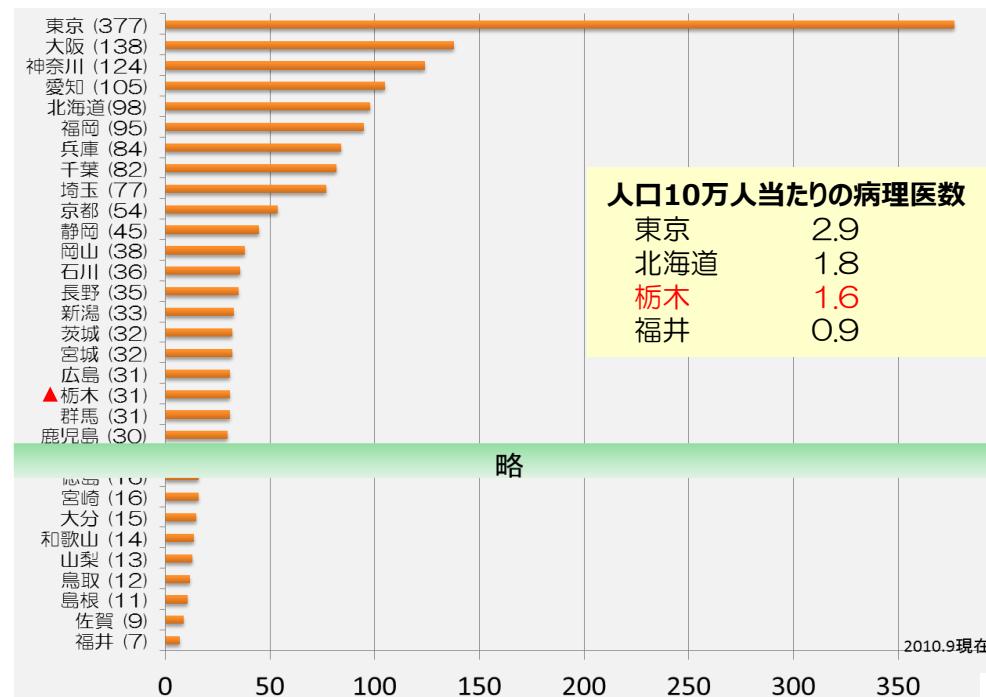


■ 病理組織診断の守備範囲

- その臓器／組織に見られる病変の質的診断
→いわゆる“病理診断”（炎症、良性 vs 悪性、組織型、etc）
- 治療の適否の評価
→腫瘍の分化度、悪性度、治療標的分子発現の評価（Her2, ALK, etc）
- がんの進展度診断
→T,N分類、切除断端の評価
- 治療効果の評価
→組織学的治療効果判定
- 予後の推定
→組織型、脈管侵襲、その他の予後マーカー
- 治療への指針
→上記を総合したコメント



★病理専門医数は、2,128名（国内）



- 全国的に病理検体数が増え続ける中、病理医数は低い水準で横ばい状態です。病理医の高齢化傾向も明らかとなっており、今後の日本の医療（特にかん診療）の基盤を揺るがす問題になりつつあります。
- 都道府県別の病理専門医数（上図）を見ると、地域格差も歴然（3倍以上）とあります。ちなみに栃木県は全国19位（2010年9月現在）でした。
- 当院でも、手術数の増加とともに業務量が増える中、スタッフ一同（内 病理専門医 9名）、医療の質を支えるべく日々努力していますので、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

★ニュース（1）

第56回 日本病理学会関東支部学術集会（当番世話人 福嶋敬宜教授）

平成24年9月8日（土） 自治医科大学地域医療情報研修センターで開催しました（写真左）。

第16回 栃木県腸疾患研究会（当番世話人 福嶋敬宜教授）

平成24年10月6日（土） 宇都宮ポートホテルで開催しました（写真右）。

それぞれ予想にも増して多くの人が集まり、有意義な講演、活発な討論が為され 成功裏に終わることができました。関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



★ニュース（2）

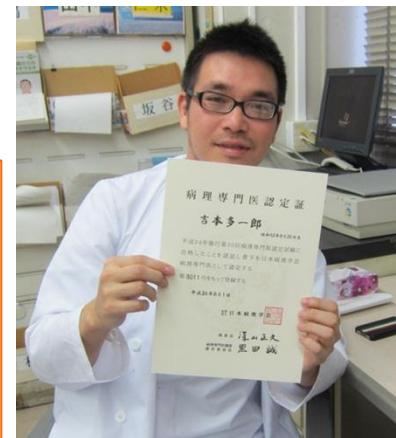
日本病理学会認定病理専門医試験に 吉本多一郎 助教が合格しました。

平成24年度（第30回）日本病理学会病理専門医試験は去る7月28日（土）29日（日）の2日間にわたり、名古屋大学を会場として行われました。受験者数は89名で、72名（80.9%）が合格しました。

日本病理学会認定病理専門医とは：

臨床研修を修了後に日本病理学会が認定する研修施設で4年以上病理学研修を行い所定の研修内容（※）を終了した後、専門医試験（筆記試験、実技試験）に合格し、運営委員会が審議、認定された医師です。

- ※ 組織診経験症例数 5,000件以上
- 細胞診経験症例数 1,000件以上
- 術中迅速診断報告 50例以上
- 剖検報告書（病理学的考察あり） 40例以上
- 人体病理学に関する原著論文/学会報告 3編以上



検体受付および剖検受付時間

8：30 ～ 17：15（内線2257）

注）土・日・祝祭日は剖検のみ受付（内線2257 or PHS18218）